

## ヒロハツリバナ *Euonymus macropterus* Rupr.

### 【評価理由】

温帯性の樹木で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なかった。過去に生育していた場所を探索したが、確認できない。しかしまだ残存しているという情報があるので、定性的に絶滅危惧 I A類と評価する。

### 【形態】

落葉性の小高木。高さ 4~6m になり、若枝は緑色でやや太い。葉は対生し、短い柄があり、葉身は倒卵形~倒卵状楕円形、長さ 3~12cm、幅 1.5~7cm、先端は急鋭尖頭、基部は円形~くさび形、両面とも無毛、辺縁には細鋸歯がある。花期は 6~7 月、花序は枝の下方の葉腋から生じて下垂し、長さ 3~10cm、集散状に分枝して 3~20 花をつける。花は淡緑色で直径約 6mm、花弁は 4 枚である。果実は 4 翼が横に著しく張り出し、翼を含めて幅 2~2.5cm、高さ約 1cm、種子は赤褐色または黄赤色の仮種皮に包まれる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：2 豊根 (茶白山, 小林 36826, 1992-4-29)。最近の探索では確認できなかったが、まだ僅かに残存しているらしい。

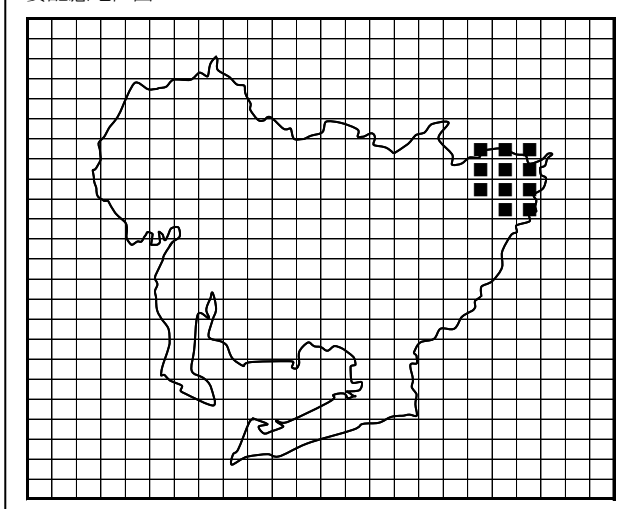
#### 【国内の分布】

北海道、本州 (東北~中部地方、近畿地方南部、鳥取県東部)、四国に生育する。長野県まで行けば普通に見られる樹木である。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア東部に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

落葉広葉樹林内にごく少数の個体が生育していたという。

### 【保全上の留意点】

茶白山周辺は、愛知県内では温帯性の植物が集中して生育している場所であり、保全上の重要性も高い。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発を避けるべきである。

### 【関連文献】

保木本 I p.267, 平木本 II p.38, 平新版 3 p.135.